

平成25年10月19日

各位

図書館友の会全国連絡会 代表 福富洋一郎

『武雄市図書館の民間会社による管理・運営に関する声明書』に対する回答について』への見解書の送付について

私たちは、公立図書館が「地域の知の拠点」として発展することを願い、全国各地で活動する市民団体・個人の連絡組織です。7月7日に「武雄市図書館の民間会社による管理・運営に関する声明書」を公表しました。その後、7月29日に武雄市教育委員長及び武雄市長連名による『武雄市図書館の民間会社による管理・運営に関する声明書』に対する回答について』をいただきました。この回答を丁寧に読ませていただきましたが、「声明書」で指摘した問題点・課題が払拭されませんでした。そればかりか、武雄市図書館をモデルとする動きが全国的に広がる気配があり、もっと大きな疑念を持つに至りましたので、10月16日に、武雄市からの回答についての「見解書」を送付しました。

声明書、その回答については、「図書館友の会全国連絡会」のホームページに公表していますので、ご参照ください。 <http://totomoren.net/>

私たちは、声明書及び見解書で指摘した問題点・課題について、直接の関係者ばかりでなく、全国の自治体の図書館行政に携わる方、議員、マスコミ関係者、そして何よりも公立図書館の主人である住民一人ひとりに広く伝わるよう、心から願っています。

ご承知のとおり、日本の公立図書館の「図書館数」・「資料費」は、G8各国平均から大きく立ち遅れております。また図書館の要となる「司書」の配置も、公立図書館・学校図書館ともに大変貧しい状態にあります。その中で近年、公立図書館に指定管理者制度を導入したり、窓口業務を民間会社に委託する自治体が増えています。しかし、それは公立図書館が担うべき図書館サービスの低下につながり、私たちが目指す理想の図書館づくりにはそぐわないものとして、これまでもその問題・課題を提起してきました。

佐賀県武雄市図書館は、本年4月にカルチュア・コンビニエンス・クラブ社を指定管理者とする図書館としてリニューアル開館しました。このことは全国的に注目を集め、武雄市を参考にする自治体が出てきたと報道されています。しかし、私たちは、この武雄市の事例は、公立図書館の振興・発展ばかりでなく地方自治のあり方にとっても、大きな問題・課題があると深く憂慮し、声明書及び見解書を公表しました。

この声明書及び見解書を、これからの図書館のあり方を考える参考にして頂ければ幸甚に存じます。また、市民と行政との真摯な意見交換を通じ、これからもお互いの信頼感が醸成されることを期待しています。

以上

【連絡先】 福富洋一郎

※本リリースに記載されている住所等連絡先は、ネット掲載分は個人情報保護の観点から伏させていただきます。お問い合わせは図書連事務局まで。